



東海村【茨城県】 文化財保護・活用計画

■ 策定年月：平成30年3月 ■ 人口：38,371人 ■ 市域面積：38km²
■ 担当課：東海村教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



東海村の歴史文化基本構想に位置付ける『東海村文化財保護・活用計画』は、“ふるさと東海村の歴史と自然を「学び・理解し・共有する」ことを通して、郷土の誇るべき文化財を次世代へ継承するとともに、ひとづくり、まちづくりに活用し、未来を展望する”ことを基本目標に掲げ、3つの方針と9つの施策からなる、本村の文化財の保護・活用を推進するための指針である。

5 歴史文化を表す つのキーワード

水辺環境、大珠をもつ縄文集落、佐竹氏家臣の中世城跡、
製塩のムラ、干拓と海岸砂防林

課題

- ・ 出土遺物の適切な保管
- ・ 未指定・未登録文化財の現状把握
- ・ 歴史資料の活用

保存活用方針

- ・ 文化財の調査・把握
- ・ 文化財の保護・活用による共有財産としての認知
- ・ ひとづくり・まちづくりへの展開

保存活用のための取り組み

分野別の文化財調査・収集

古文書や民具、石仏石塔など、分野別の調査計画を策定し、現状の把握と必要に応じて資料の収集を行う。また、継続的な追跡調査を実施し、蓄積した調査結果をデータ化するとともに村民に公開する。

史跡等の保全・整備

史跡等の保存・活用策を検討し、共有の財産として文化財が次世代に引き継がれるよう努める。平成30年度から県指定史跡の石神城跡整備基本計画の策定を進める。



文化財を通じたひとづくり

楽しみながら、地域の文化財保護活動を行う核となる人材を育成する仕組みとして（仮称）市民学芸員制度を導入する。また、地域の方々が地域の歴史を学んだ成果を発信する仕組みを構築する。

「とうかいまるごと博物館」の推進

村内に点在する史跡・遺跡や自然を「野外にある展示物」と捉え、まちあるき、見学会、講座、フィールドワークなどを組み合わせ、歴史や自然を体感しながら楽しく学べる機会を提供する。



とうかいまるごと博物館



「とうかいまるごと博物館」とは、東海村をまるごと屋根のない博物館と捉える考え方である。コンパクトな面積の中に多様な文化財や自然が存在するという東海村の特徴を生かし、東海村全域をフィールドに、歴史・自然に親しみ、郷土愛を育むことのできる活動を展開する。平成33年度開館予定の拠点施設「(仮称) 歴史と未来の交流館」を見すえて、平成29年度からスタートした。

活動例 (平成29年度)

- ① 発掘された東海村の遺跡
- ② 古代の真崎を冒険しよう
- ③ ドキドキ土器作り体験
- ④ 押延地区の古代のタイムカプセル「貝塚」を開けよう
- ⑤ 砂と松の物語～村松海岸砂防林造成と記念碑を巡るツアー～
- ⑥ ナゾを解きながら攻略せよ! 『石神城探検』
- ⑦ 発掘された石神城
- ⑧ 石神城下町と塩の道ツアー
- ⑨ 歴史さんぽ in 竹瓦 等

策定後の成果 (見込まれる効果)

- ① 村内における未指定・未登録文化財の把握に努め、文化財の散逸を防ぐ。また、調査成果を分かりやすく村民に公開することで文化財保護意識の高揚が期待される。



- ② 文化財として価値の高い史跡等を公有地化し、文化財としての価値を最大限に維持し、遺構の保全を図りながら整備することで、訪れた人が安全に楽しみながら、地域の歴史を学べる場となること期待される。



- ③ 「とうかいまるごと博物館」として、村全域をフィールドに、点在する史跡・遺跡や自然環境を体感しながら学ぶイベントや講座を展開することで、地域の文化財を地域の人々が知り、関心を高め、自分達の財産として認識し、地域の中で文化財を守り、活用する仕組みが構築されることが期待される。



① 村内文化財の把握・調査・公開

③ 文化財の保存・活用の仕組みの構築